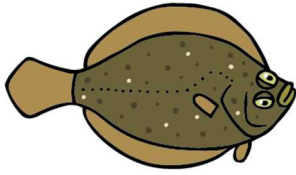


マコガレイ (東京湾)



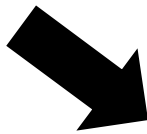
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991年から種苗放流が行われている。

資源評価

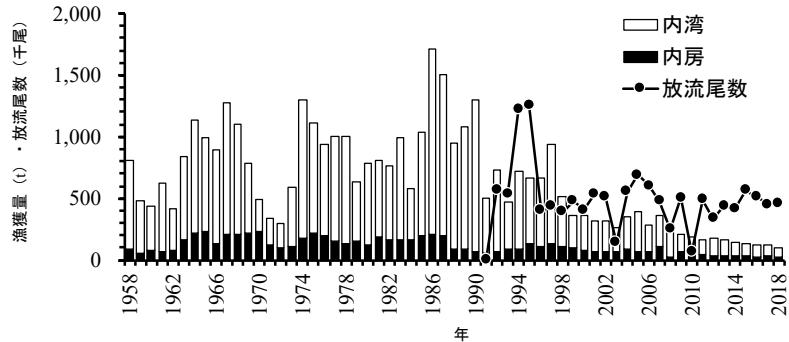
水準：低位



動向：減少



漁獲量



かれい類漁獲量と放流尾数の経年変化

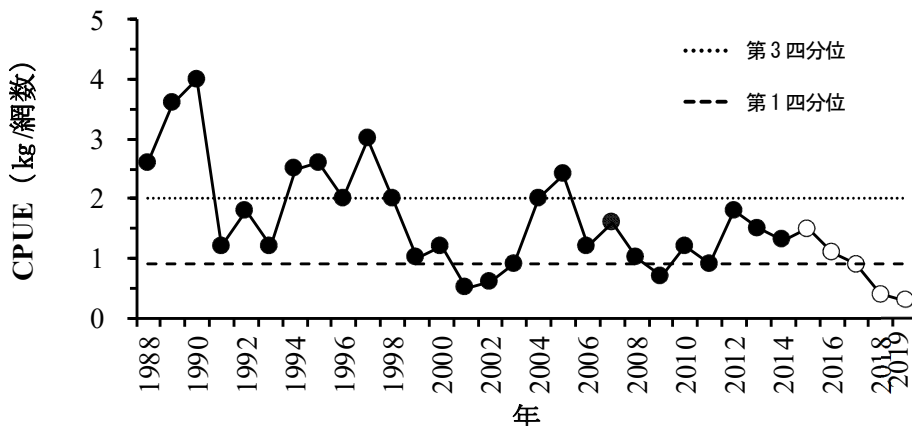
2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

東京湾におけるかれい類の漁獲量は、1970年代まではイシガレイ主体で、その後、マコガレイ主体となった。長期的には減少傾向にあり、1980年代後半から1990年までは1000tを超える水揚げがみられていたが、近年は200tを下回っており、低迷している。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2019年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数; CPUE)の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限による漁獲圧の抑制、稚魚や産卵親魚の保護のための禁漁区設定、県との稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県による種苗放流が行われている。